

特集

対面と遠隔（オンライン）を組み合わせたハイブリッド型授業の進展と教育改革

特集の狙い

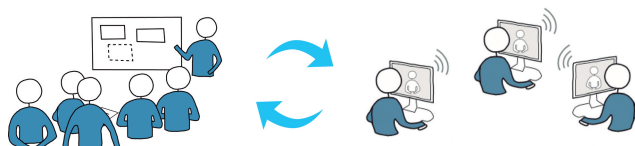
新型コロナが収束する兆しが見えない中であって、大学では対面授業と遠隔授業の長所を組み合わせたハイブリッドな授業・学修がニューノーマルな教育として進展しつつあります。これを契機に「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」における学修者本位による教育への転換が加速するものと考えられます。

学びのデジタル変革は、対面による物理的空間の学びと、時間・場所を越えたサイバー上の仮想空間の学びを組み合わせることにより、社会の多様な「知」・「体験」との融合を可能にする点で、高度な学びの最適化に必須の教育のパラダイムシフトです。

学生が生涯に亘り主体的に問題発見・解決に関与し、社会貢献の幸せを享受できるようにしていくには、授業の自前主義から脱し、広い学びの場、思考・判断を訓練する場を如何にデザインし、学生に提供できるかにかかっています。そのような観点から、ハイブリッド型授業の効果的な授業運営を考える場としました。

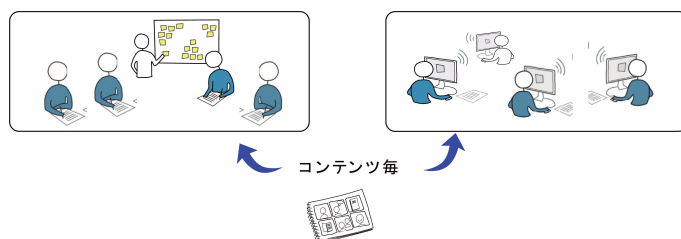
*オンライン授業と対面授業を組み合わせる、いわゆるハイブリッド型授業・学修には主に以下のような授業方法があります。

ハイフレックス型：同じ内容の授業を、対面とオンラインで同時に行う授業方法です。



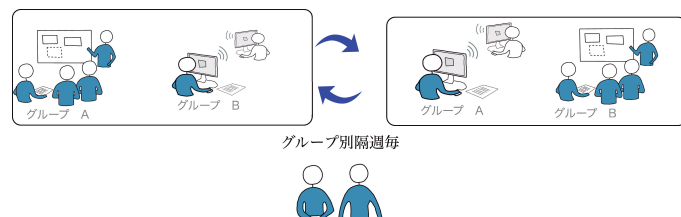
学生が同じ内容の授業を、オンラインでも対面でも受講できる授業方法で、教員は対面で授業を行い、学生は自身の状況に応じて対面授業を受講するか同期双方向型のオンライン授業を受講するかを選べます。

ブレンド型：教員が授業の目的にあわせて対面とオンラインを組み合わせる授業を実施します。



例えば、半期15回の授業のうち、初回や、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施するなどの授業方法です。

分散型：対面授業方式で、急な授業方法の変更が必要になった場合に対応可能な授業方法です。



例えば、履修生を学籍番号の奇数・偶数などで分け、半分の学生は対面授業を受講、残りの学生はオンライン授業を受講させ、次の回ではそれを入れ替えるといった方法です。実験や実習でクラス全員が出席する必要があるにも関わらず、対応が難しい場合などに適応できます。